



## 令和6年度「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 共同事業

## 大規模災害時における学生ボランティアの育成と、ネットワーク化に関する研究

酒井 治子(東京家政学院大学) 伊藤 マモル(法政大学) 小林 貴徳(専修大学) 富永 晓子(大妻女子大学短期大学部)  
谷島 貴太(二松学舎大学) 深津 謙一郎(共立女子大学) 堀 洋元(大妻女子大学) 渡辺 明日香(共立女子短期大学部)

## 目的

近年、地震や台風等の自然災害が発生しており、首都圏においても直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害にむけた対策が行われてきている。千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの6大学・2短期大学を含む大学では、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結し、「区民や一般の帰宅困難者の受け入れ」、及び「情報・食糧・飲料水などの提供」などの使命を担うことになっている。そこで、令和6年度には、今までの研究成果を踏まえ、大規模災害時における学生ボランティアの育成とネットワーク化に関する研究をすすめた。

## 研究内容・結果

## 1. 大規模災害時における学生ボランティアの育成、その効果の解明

法政大学

- 大学生の3日間の防災教育プログラムを実施。
- 大規模災害に関する知識を深める講義
- 避難所運営ゲーム（KUG）
- 災害現場を想定した疑似帰宅困難者支援施設のロールプレイ（受付担当・避難者役）
- +グループワークで問題点や改善策を議論

必要な意識・知識・技能をどのように習得するか



疑似帰宅困難者の受け入れ側を演じた学生らの作戦会議



帰宅困難者支援施設入口前の受け入れ時を模擬体験

## 1. 大規模災害時における学生ボランティアの育成、その効果の解明

## 【結果および考察】

- 1) ロールプレイを通じて、学生は避難所運営の課題を実践的に理解し、多様な避難者対応や資源配分、予期せぬ事態への対処スキルを習得した。
- 2) グループワークでは、異なる視点から問題を分析し、創造的な解決策を考案する機会となった。
- 3) これらの経験により、学生の災害ボランティア活動への意欲が向上し、具体的な行動イメージを持つことができた。
- 4) ロールプレイとグループワークの組み合わせが、効果的な学びを促進することが示唆された。



## 2. 帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）の開発とワークショップ

令和3年度

学生版KUG



令和4年度

学生・教職員版KUG



令和5年度

地域連携版KUG

令和6年度

帰宅困難者支援施設としての効率的な運営および円滑な管理体制の充実と強化へ



## 3. 各大学間をつなぐネットワークづくりとその効果の検証

二松学舎大学



Discord: インスタントメッセージ・ビデオ通話・音声通話・VoIPフリーウェア。ユーザーは2024年時点でおよそ6,000万人。



## ■ Discord導入の目的

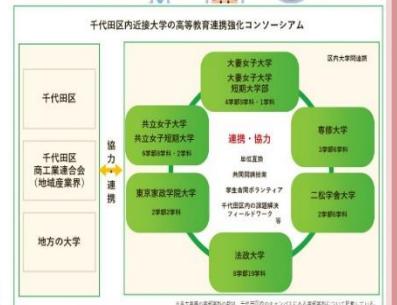
- 構造化された形で情報を蓄積できることから、Discordを導入
- リアルタイム情報共有の強化
- KUG（帰宅困難者支援施設運営ゲーム）の成果の共有（防災ネットワーク形成を促進）
- 防災関連情報の蓄積・共有（KUGの記録、千代田区の防災情報を集約）

## ■ 運用成果

- ✓ リアルタイムでの情報共有が可能に
- ✓ KUGの振り返りを蓄積・比較できる仕組みを構築
- ✓ 大学間の防災協力体制が強化

## ■ 课题と今後の展望

- 情報整理の仕組みの整備（フォーマット統一やタグ付けの検討）
- 実災害時の運用テストの実施（通信環境や情報整理の課題を検証）
- 自治体・防災団体との連携強化（より実効性の高いネットワークへ）



## 考察・まとめ

今年度は、大学間をつなぐネットワークづくりとその効果の検証のために、具体的なプラットフォームとしてDiscordを選択し、「千代田区コンソーシアム防災ネットワーク」という名称のサーバーを立ち上げることができた。リアルタイムでの情報共有が可能となり、KUGの振り返りを蓄積・比較できる仕組みを構築することを可能にした。これにより、大学間の防災協力体制が強化でき、大学だけでなく、情報整理の仕組みの整備し、実際に災害時に運用できるよう、検証を重ねていきたい。在勤、在住、そして、行政やさまざまな団体と連携を強化しながら、実効性の高いネットワークづくりをすすめたい。